

平成 27 年度農作物病虫害発生予察注意報第 2 号

平成 27 年(2015 年) 7 月 27 日

山 口 県

病虫害名 イネいもち病(葉いもち、穂いもち)

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 7 月下旬～8 月下旬
- 3 発生程度 多

4 注意報発令の根拠

- (1) 7 月 22 日～24 日の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場率 24.4% (平年 17.6 %)、発病株率 13.9% (平年 5.5%)、発病度 4.0(平年 1.4) で平年に比べ多かった(図)。
- (2) 上記の調査では、上位葉に病原菌胞子の形成量が多い進行型病斑がみられた(写真)。
- (3) 葉いもち発生予測モデル(BLASTAM)では、7 月 21 日～23 日にかけて県内全域で感染好適条件が出現しており(表)、今後も発病の進展や新たなほ場での発生が予想される。

5 防除方法

(1) 防除時期

ア 葉いもちが発生しているほ場は、直ちに防除を行う。また、穂いもちの防除予定日まで 7 日以上ある場合(止葉抽出前)は、葉いもちの防除を行い、その後、穂いもちの防除を実施する。

イ 穂いもちの防除を適期に実施する。粉剤・液剤は穂ばらみ後期及び穂揃期の 2 回行い、粒剤・パック剤は出穂前に施用する。

(2) 防除薬剤

平成 27 年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準による。

6 防除上注意すべき事項

(1) 6 月中旬までに移植したほ場は、長期持続型箱施用剤の効果が低下してきているため、ほ場を丁寧に見回り、葉いもちが発生している場合は直ちに防除する。

(2) 薬剤散布の際、降雨が続く場合は雨の合間に散布を行うことも必要となるが、散布後 3～4 時間は降雨のないことが望ましい。

(3) 出穂後に天候不良が続く場合は、穂揃期の防除後 7 日～10 日目に再度防除する。

(4) 粒剤・パック剤は薬剤の種類によって使用時期が異なるので注意する。

(5) 防除を行う場合は、周辺の野菜等に農薬が飛散しないように注意する。

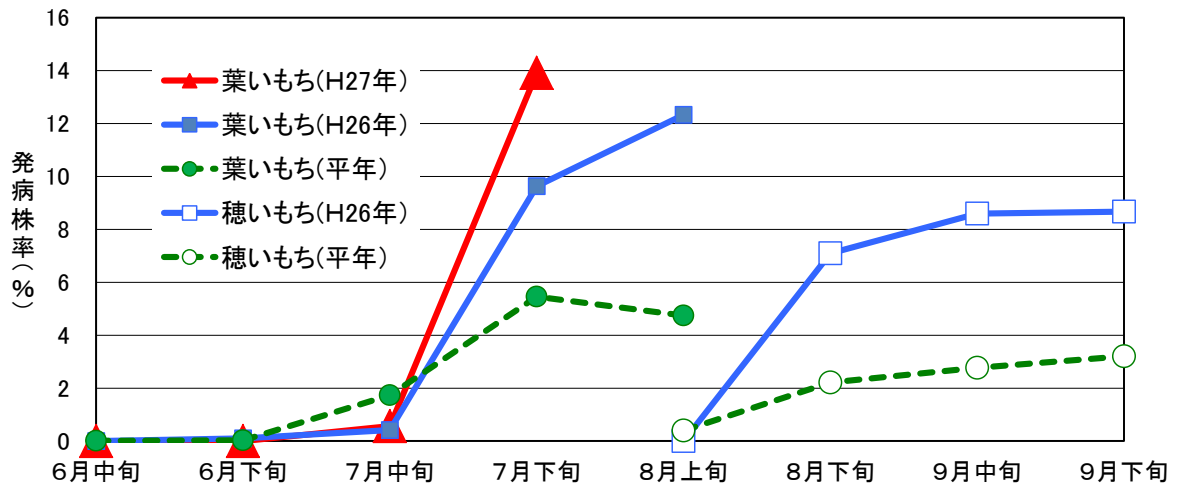


図 イネいもち病の発病株率



写真1 葉いもちの症状



写真2 進行型病斑



写真3 穂いもちの症状

表 BLASTAMIによる感染好適条件の出現状況(7/1~7/26)

アメダス 地点	7 月																									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
須佐	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
萩	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-
油谷	-	-	-	-	●	-	△	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳佐	-	-	-	-	●	-	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	●	●	-	-
秋吉台	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-
広瀬	-	-	-	-	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-
豊田	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
山口	-	-	-	-	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-
岩国	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
防府	-	-	-	-	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
下松	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-
玖珂	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
下関	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
宇部	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
柳井	-	-	-	-	●	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
安下庄	-	-	-	-	●	-	●	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-

注) ●印は、アメダスデータから算出した葉いもちの感染好適条件が出現した日を示す。△印は、感染するには一部の条件が不足した準好適条件出現日を示す。
 感染好適条件出現の約1週間後に初発病斑が認められ、約2週間後に病斑が目立ってくる。ただし、防除(箱粒剤等)、イネの品種、肥培管理等の条件によって感染、発病しない場合もある。